

Cisco.500-430.v2024-03-17.q17

試験コード:	500-430
試験名称:	Cisco AppDynamics Professional Implementer
認定資格:	Cisco
無料問題数:	17
バージョン:	v2024-03-17
アクセス数:	184
ページビュー数:	170
https://www.jpnpdf.com/Cisco.500-430.v2024-03-17.q17-mondaishu.html	

最新問題: 1

管理者は、Events Service クラスターの容量を改善するように求められます。クラスターに容量を追加するための推奨される方法は何ですか？

- A. 新しいイベント サービス クラスターを追加して負荷を共有します。
- B. 既存のノードと一致する同一のハードウェアを備えたマシン上で実行されているノードを追加します。
- C. クラスターのマスター ノードにストレージを追加します。
- D. できるだけ多くの既存のノードにストレージを追加します。

Answer: B (メッセージを残す)

説明

Cisco AppDynamics Professional Implementer (CAPI) のドキュメントによると、Events Service クラスターに容量を追加する推奨方法は、既存のノードと一致する同一のハードウェアを備えたマシン上で実行されているノードを追加することです¹²。これにより、クラスターのデータ ストレージ、レプリケーション、冗長性が向上し、クエリの処理能力も向上します。Events Service クラスターは水平方向に拡張可能なため、データ ストレージ要件の増大に応じてノードを追加できます³²。イベント サービスは、同一のディレクトリ構造、ユーザー アカウント プロファイル、ハードウェア プロファイルを持つ専用マシンで実行する必要があります¹。ヒープスペースの割り当てについては、AppDynamics では、使用可能な RAM の半分 (最小 7 GB から最大 31 GB) をイベント サービス プロセスに割り当てることをお勧めします¹。ソリッドステート ドライブ (SSD) はハードディスク ドライブ (HDD) よりも大幅にパフォーマンスが優れているため、実稼働環境での導入に推奨されます¹。

間違ったオプションは次のとおりです。

新しい Events Service クラスターを追加して負荷を共有します。(A) これは、複数のクラスターを管理し、データとクエリを適切なクラスターにルーティングするための複雑さと

オーバーヘッドがさらに増大するため、推奨されません。また、複数のクラスターで分析を有効にするには、より多くのライセンス ユニットが必要になります。

クラスターのマスターノードにストレージを追加します。これは、クラスターのデータ レプリケーションや冗長性、クエリの処理能力を向上させないため、お勧めできません。また、マスターノードのストレージがワーカーノードより多くなるため、クラスター内に不均衡が生じ、クラスターのパフォーマンスと安定性に影響を与える可能性があります。できるだけ多くの既存のノードにストレージを追加します。(D) これは、クラスターのデータ複製や冗長性、クエリの処理能力を向上させないため、推奨されません。また、一部のノードが他のノードよりも多くのストレージを保有するため、クラスター内に不均衡が生じ、クラスターのパフォーマンスと安定性に影響を与える可能性があります。

参考文献:

- 1: Cisco AppDynamics プロフェッショナル実装者 (500-430)
- 2: イベント サービス要件 - AppDynamics
- 3: イベント サービスのデプロイメント - AppDynamics
- 4: イベント サービスのデプロイメント - AppDynamics

最新問題: 2

AppDynamics コントローラーが 500 エージェントのサポートを超えて成長するにつれて、何がより重要になるでしょうか?

- A. CPU 使用率
- B. コントローラーに割り当てられた RAM
- C. ネットワーク スループット
- D. ディスク I/O
- E. GlassFish サーバー上のスレッド数

Answer: C ([メッセージを残す](#))

説明

AppDynamics コントローラーが 500 エージェントのサポートを超えると、ネットワーク スループットがより重要になります。これは、コントローラーがエージェントからの大量のデータを処理するだけでなく、UI および API クライアントからのリクエストに対応する必要があるので、ネットワーク スループットは、一定時間内にネットワーク上で転送できるデータ量の尺度です。ネットワーク スループットが低いと、コントローラーとエージェントまたはクライアント間の通信で遅延、エラー、またはタイムアウトが発生する可能性があります。したがって、コントローラーのネットワーク スループットを監視し、予想される負荷の最小要件を満たしていることを確認することをお勧めします¹²³。参考資料: コントローラーのシステム要件、パフォーマンスとコントローラーのサイジングのガイドライン、Microsoft Azure で AppDynamics を実行する方法

最新問題: 3

Linux に AppDynamics コントローラーをインストールする前に必要な 2 つの準備タスクはどれですか? (2つお選びください。)

- A. JRE をインストールします。
- B. MySQL ポート (3388) が開いていることを確認します。
- C. SSH をインストールします。
- D. libaio をインストールします。
- E. 十分な一時 (tmp) スペースが利用可能であることを確認します (少なくとも 1 GB)。

Answer: ([解答を表示する](#))

説明

Linux に AppDynamics コントローラーをインストールする前に、システムが要件を満たし、インストールがスムーズに実行されることを確認するために、いくつかの準備タスクを実行する必要があります。これらのタスクのうち 2 つは次のとおりです。

libaio がまだインストールされていない場合は、ホスト マシンに libaio をインストールします。このライブラリは、コントローラに必要なシステム上の非同期 I/O 操作を容易にします。Linux ディストリビューションのパッケージ マネージャー (yum や apt-get など) を使用して libaio をインストールできます。たとえば、CentOS では、`yum install libaio1` を実行できます。

システム上に十分な一時 (tmp) スペース (少なくとも 1 GB) があることを確認してください。コントローラーのインストールでは、tmp スペースを使用してソフトウェア コンポーネントを抽出してインストールします。`df -h /tmp2` を実行すると、tmp スペースを確認できます。tmp スペースが不十分な場合は、不要なファイルを削除してスペースを解放するか、`-Djava.io.tmpdir` パラメーターをインストーラーに渡してインストール用に別の一時ディレクトリを指定します³。

その他の準備タスクには、ユーザー アカウントの権限の確認、ウイルス スキャナの構成、netstat ネットワーク ユーティリティのインストール、ファイル記述子の制限 2 の設定などがあります。参考資料: コントローラー用の Linux の準備、Linux へのコントローラーのインストール、および AppDynamics ドキュメントの [コントローラーのシステム要件]。

最新問題: 4

カスタム拡張機能をマシン エージェントに追加するには、少なくともどのアーティファクトが必要ですか？

A. ディレクトリ

Jar またはスクリプト ファイル

Monitor.xml ファイル

B. ディレクトリ

Manitor.xml ファイル

Custom-gxtension.xml ファイル

C. ディレクトリ

ジップエクステンション

Monitor.xml ファイル

D. ディレクトリ

スクリプトファイル

Config.json ファイル

Answer: A ([メッセージを残す](#))

説明

カスタム拡張機能をマシン エージェントに追加するには、ディレクトリ、jar またはスクリプト ファイル、monitor.xml ファイルの少なくとも 3 つのアーティファクトが必要です¹²。このディレクトリは、拡張ファイルを次のディレクトリに配置する場所です。

<machine_agent_home>/monitors ディレクトリ。jar またはスクリプト ファイルは、カスタム メトリックを収集してマシン エージェントに報告する実行可能ファイルです。monitor.xml ファイルは、拡張機能の名前、頻度、パラメーターを定義する構成ファイルです。オプションで、拡張機能のライブラリ、構成ファイル、テンプレートなどの他のファイルを含めることもできます¹²。参考資料: スクリプト、拡張機能、カスタム メトリックを使用した監視拡張機能の構築

最新問題: 5

インストール中に AppDynamics コントローラーによって作成される 2 つのユーザー アカウントはどれですか? (2つお選びください。)

- A. Elastic Search ルート ユーザー
- B. GlassFish の管理者ユーザー
- C. 顧客が指定したコントローラ管理者アカウント
- D. コントローラを実行する OS ユーザー
- E. REST API ユーザー
- F. MySQL appd 管理者ユーザー

Answer: B,C ([メッセージを残す](#))

説明

AppDynamics コントローラは、GlassFish アプリケーション サーバー上で実行され、MySQL データベースを使用する Java Web アプリケーションです。コントローラーのインストール中に、デフォルトで 2 つのユーザー アカウントが作成されます。

GlassFish asadmin ユーザーは、GlassFish サーバーの管理ユーザーです。このユーザーには、GlassFish サーバーとそのドメインを起動、停止、構成する権限があります。このユーザーのデフォルトのユーザー名は admin、デフォルトのパスワードは appdynamics です。このユーザーのパスワードは、インストール後に asadmin コマンドライン ツール 1 を使用して変更できます。

顧客指定のコントローラ管理者アカウントは、インストール ウィザード中に指定するユーザー アカウントです。これは、AppDynamics ユーザー インターフェイス (UI) に初めてアクセスし、アプリケーションの作成、エージェントの構成、ユーザーとグループの管理などのさまざまなタスクを実行するために使用するアカウントです。このアカウントには任意のユーザー名とパスワードを選択できますが、AppDynamics では ASCII 文字のみを使用することをお勧めします。インストール後にコントローラ UI で追加のユーザー アカウントを作成することもできます²。

他のオプションは、コントローラーのインストールによって作成されるユーザー アカウントではありません。Elastic search の root ユーザー、REST API ユーザー、および MySQL appd 管理ユーザーは、コントローラー コンポーネントによって内部的に使用され、エンドユーザーには公開されないユーザー アカウントです。コントローラを実行する OS ユーザーは、インストール前にホスト マシン上で作成する必要があるユーザー アカウントであり、コントローラのインストールによって作成されるものではありません³。参照: AppDynamics ドキュメントの「コントローラーのインストール」、ユーザーとグループの管理」、ルート ユーザーと Glassfish 管理者のパスワードの更新」。

最新問題: 6

AppDynamics REST API を使用してメトリクスを取得する正当な理由を 3 つ挙げてください。(3つお選びください。)

- A. 1 分単位のデータをアーカイブします。
- B. 平均ノード可用性を示すために毎月実行されるカスタム レポートを作成します。
- C. 2 つの既存のメトリックに基づいて新しいメトリックを計算します。
- D. ヘルス ルールを評価するため
- E. ヘルスルール違反を取得します。
- F. ベースラインを使用してアラートを作成し、内部の発券システムに送信します。

Answer: A,C,E (メッセージを残す)

説明

メトリクスを取得する AppDynamics REST API を使用すると、メトリクスのパスとデータの時間枠を指定することで、メトリクスに対して生成された値を取得できます¹。この API を使用する正当な理由には次のようなものがあります:

1 分単位のデータをアーカイブします。AppDynamics コントローラーは、保持期間に応じてさまざまなレベルの粒度でメトリック データを保存します。たとえば、1 分の粒度データを 8 日間、10 分の粒度データを 32 日間、1 時間の粒度データを 365 日保存します。1 分粒度のデータを 8 日を超えてアーカイブする場合は、API を使用してデータを取得し、外部データベースまたはファイル システムに保存できます。

2 つの既存のメトリックに基づいて新しいメトリックを計算します。AppDynamics コントローラーは、平均応答時間、1 分あたりのコール数、1 分あたりのエラー数など、いくつかの組み込みメトリックを提供します。ただし、エラーとエラーの比率など、コントローラーでは利用できない新しいメトリックを計算することもできます。コール、または遅いトランザクションの割合。API を使用して既存のメトリクスの値を取得し、独自のロジックまたは式を使用して計算を実行できます。

ヘルスルール違反を取得します。正常性ルールは、アプリケーション コンポーネントのパフォーマンスと可用性のしきい値を定義するルールです。正常性ルールに違反すると、AppDynamics コントローラーはイベントを生成し、オプションでポリシー アクションをトリガーします。API を使用して、特定のアプリケーション、時間範囲、重大度レベルの正常性ルール違反のリストを取得できます。これは、アプリケーションの状態を監視および

びトラブルシューティングし、必要に応じて修正措置を講じるのに役立ちます。参考資料:
メトリクス データの取得、ヘルス ルール API

最新問題: 7

アップグレード後にアプリケーション サーバーが再起動されました。アップグレードされた Java エージェントが正常に実行されていることを確認する 2 つの有効な方法は何ですか? (2つお選びください。)

- A. アプリケーション ログに成功を示すメッセージが含まれていることを確認します。
- B. コントローラ UI 内のノードが、アプリ エージェントがレポートしていることを示していることを確認します。
- C. メトリック ブラウザでそのノードの Java エージェント バージョン メトリックを確認します。
- D. Java エージェント ログに、エージェントが正常に開始されたことを示すメッセージが含まれていることを確認します。

Answer: B,C (メッセージを残す)

説明

Cisco AppDynamics Professional Implementer (CAPI) のドキュメントによると、アップグレードされた Java エージェントが正常に実行されていることを確認する有効な方法は次の 2 つです。

コントローラ UI 内のノードが、アプリ エージェントがレポートしていることを示していることを確認します。(B) コントローラ UI は、ユーザーが AppDynamics エージェントによって計測されるアプリケーション、層、ノード、およびその他のエンティティのパフォーマンスを監視および管理できる Web ベースのアプリケーションであるため、これは有効な方法です。コントローラ UI には、各層内のノードのステータスが表示され、アプリ エージェントがレポートしているかどうかを示されます。アプリ エージェントがレポートしている場合、ノードアイコンは緑色でエージェントのバージョンを示します。アプリ エージェントがレポートを行っていない場合、ノードアイコンは灰色になり、エージェントが最後にレポートした時間が表示されます。ユーザーは、ノードアイコンの上にマウスを置くと、エージェントタイプ、エージェントバージョン、エージェントランタイムディレクトリ、エージェントプロパティファイルなどの詳細を表示することもできます。ユーザーは、ノードアイコンが緑色で、エージェントの最新バージョンが表示されていることを確認することで、アップグレードされた Java エージェントが正常に実行されていることを確認できます¹²。

メトリック ブラウザでそのノードの Java エージェント バージョン メトリックを確認します。メトリック ブラウザはユーザーが AppDynamics エージェントによって収集されたメトリックを表示および分析できるようにするコントローラ UI の機能であるため、これは有効な方法です。メトリック ブラウザには、階層ツリー構造でメトリックが表示されます。各ノードは、メトリックカテゴリ、メトリック名、またはメトリック値を表します。ユーザーはノードを展開または折りたたんで、メトリクスを選択または選択解除してグラ

フに表示できます。ユーザーは、フィルター、時間範囲、ベースライン、その他のオプションを適用してグラフをカスタマイズすることもできます。ユーザーは、メトリック ブラウザでそのノードの Java エージェント バージョン メトリックに移動することで、アップグレードされた Java エージェントが正常に実行されていることを確認できます。Java エージェント バージョン メトリックは、ノード上で実行されている Java エージェントのバージョン番号を示します。ユーザーはメトリック値を予想されるエージェントのバージョンと比較し、アップグレード後にメトリックが更新されていることを確認できます³⁴。

間違ったオプションは次のとおりです。

アプリケーション ログに成功を示すメッセージが含まれていることを確認します。(A) アプリケーション ログには Java エージェントのアップグレードの成功を示すメッセージが含まれていないため、これは有効な方法ではありません。アプリケーション ログは、起動、シャットダウン、エラー、警告、デバッグ情報など、アプリケーション サーバーで発生するイベントやメッセージを記録するファイルです。アプリケーション ログには、インストール、アップグレード、構成、レポートなど、Java エージェントで発生するイベントやメッセージは記録されません。Java エージェントには独自のログ ファイルがあり、`<agent_home>/logs` ディレクトリ。このディレクトリには、Java エージェントのアップグレードの成功または失敗を示すメッセージが含まれます。

Java エージェント ログに、エージェントが正常に開始されたことを示すメッセージが含まれていることを確認します。(D) Java エージェント ログには、アップグレード後にエージェントが正常に開始されたことを示すメッセージが含まれていないため、これは有効な方法ではありません。Java エージェント ログは、インストール、アップグレード、構成、レポートなど、Java エージェントで発生するイベントとメッセージを記録するファイルです。Java エージェント ログには、Java エージェントのアップグレード時ではなく、アプリケーション サーバーの起動時にエージェントが正常に開始されたことを示すメッセージが含まれています。Java エージェントのログには、Java エージェントのアップグレードの成功または失敗を示すメッセージは含まれません。Java エージェント ログは `<agent_home>/logs` ディレクトリにあり、エージェントが正常に開始されたことを示すメッセージは「Agent Startup Complete」です。

参考文献:

- 1: 層とノード - AppDynamics
- 2: 階層ダッシュボード - AppDynamics
- 3: メトリクス ブラウザ - AppDynamics
- 4: Java エージェントのメトリクス - AppDynamics
- [5]: Java エージェント ログ - AppDynamics
- [6]: Java エージェントのトラブルシューティング - AppDynamics

最新問題: 8

EUM エージェントとは何ですか？

A. マシン エージェントと通信します。

- B. AppDynamics コントローラーと通信します。
- C. イベント サービスと通信します。
- D. EUM コレクターと通信します。

Answer: D (メッセージを残す)

説明

EUM エージェントは、Web、モバイル、または IoT アプリケーションで実行され、エンドユーザー エクスペリエンスに関するメトリクスを収集する特別なエージェントです。EUM エージェントは、EUM エージェントによって送信された生のメトリクスを検証、集計、およびパッケージ化するコンポーネントである EUM コレクターと通信します¹²。EUM コレクターは、AppDynamics が提供する SaaS サービス、または顧客がインストールしたオンプレミス サーバーのいずれかになります¹²。次に、EUM コレクターは、保存、分析、視覚化のために、処理されたメトリクスを AppDynamics コントローラーとイベント サービスに送信します¹²。参考資料: エンドユーザー監視の概要、EUM データ

最新問題: 9

Linux 上で実行されるスタンドアロン Machine Agent の 2 つの機能は何ですか? (2つお選びください。)

- A. 分析イベントのフォワーダーとして機能できます。
- B. SNMP アラートを送信できます。
- C. 複数の AppDynamics コントローラーと通信できます。
- D. ダウンしても自動的に再起動できません。
- E. カスタム メトリクスの HTTP リスナーを開始できます。

Answer: A,E (メッセージを残す)

説明

AppDynamics スタンドアロン マシン エージェントは、ホスト マシン上で実行され、CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク使用量などのハードウェアとインフラストラクチャのメトリックを収集する Java プログラムです。Machine Agent は、次のような追加機能も実行できます。

分析イベントのフォワーダーとして機能: Machine Agent は、ビジネス トランザクション、ログ、ブラウザー、モバイル、合成イベントをアプリケーション エージェントから分析データ用の分散型のスケーラブルなデータ ストアである AppDynamics Events Service に転送するように構成できます。マシン エージェントは、カスタム イベントを SDK または API からイベント サービスに転送することもできます。これにより、ダッシュボード、クエリ、ファネル、メトリクスなどの AppDynamics Analytics 機能を使用して、アプリケーションとユーザーのパフォーマンスと動作を分析できるようになります¹²。

カスタム メトリックの HTTP リスナーの開始: スクリプト、ツール、その他のアプリケーションなどの外部ソースからカスタム メトリックを受信できる HTTP リスナーを開始するように Machine Agent を構成できます。その後、マシン エージェントはこれらのカスタム メトリックを AppDynamics コントローラーにレポートできるようになり、メトリック

ブラウザで表示したり、ヘルス ルール、ポリシー、またはダッシュボードで使用したりできます。これにより、デフォルトのマシン エージェント メトリクスでカバーされないシステムのあらゆる側面を監視できるようになります³⁴。

他のステートメントは次の理由から誤りです。

B: Machine Agent は SNMP アラートを送信できません。マシン エージェントは、外部ソースから SNMP トラップを受信し、それをイベントとして AppDynamics コントローラーに報告することのみが可能です。AppDynamics コントローラーは、正常性ルール違反またはイベントに基づいて SNMP アラートを外部システムに送信できますが、これは Machine Agent⁵ の機能ではありません。

C: Machine Agent は複数の AppDynamics コントローラーと通信できません。マシン エージェントは、一度に 1 つのコントローラとのみ通信できます。これは、エージェント構成ディレクトリの controller-info.xml ファイルで指定されます。複数のコントローラで同じホスト マシンを監視する場合は、同じマシンに複数のマシン エージェントをインストールし、それぞれが異なるコントローラ構成とポート番号を使用する必要があります。

D: Machine Agent がダウンすると、それ自体を再起動できません。Machine Agent には、障害やクラッシュが発生した場合に自動的に再起動するメカニズムが組み込まれていません。外部ツールまたはスクリプトを使用してマシン エージェント プロセスを監視し、必要に応じて再起動する必要があります。あるいは、AppDynamics エージェント インストーラーを使用して、マシン エージェントをサービスとしてデプロイすることもできます。これは、障害時に自動的に再起動するように構成できます。

参照: 分析エージェント、分析データ、HTTP リスナー、カスタム メトリック、SNMP トラップアラート統合、[SNMP 統合]、[マシン エージェント構成プロパティ]、[マシン エージェントのインストール]、

[エージェントインストーラー]、[マシンエージェントの起動と停止]

最新問題: 10

AppDynamics コントローラーのサイジングを決定する際に最も重要な要素は何ですか?

- A. コントローラー上の 1 分あたりの予測メトリック負荷
- B. アプリケーションのパフォーマンスを監視するためにコントローラにログオンしている管理者/エンドユーザーの数
- C. コントローラーに報告するエージェントのタイプ
- D. コントローラー上に作成される AppDynamics アプリケーションの数

Answer: A (メッセージを残す)

説明

AppDynamics コントローラーのサイジングを決定する際の最も重要な要素は、コントローラー上の 1 分あたりの予測メトリック負荷です。これは、メトリック負荷がコントローラー上の実際のワークロードを表しており、アプリケーションの性質、AppDynamics 構成、および使用パターンに依存するためです。エージェントの数、エージェントの種類、管理者/エンドユーザーの数、AppDynamics アプリケーションの数は単なる概算であり、特

定のシナリオによって大きく異なる可能性があります。したがって、実稼働環境にデプロイする前に、ステージング環境でシステムのパフォーマンスをテストし、メトリックのアップロード速度を使用してコントローラーのサイジングを検証することをお勧めします。参考資料: コントローラーのシステム要件、パフォーマンスとコントローラーのサイジングのガイドライン、Microsoft Azure で AppDynamics を実行する方法、プラットフォームの要件

最新問題: 11

大規模および超大規模パフォーマンス プロファイルが他のプロファイルタイプと異なる2つの点は何ですか?

(2つお選びください。)

- A. ベアメタル サーバーにインストールする必要があります。
- B. 高可用性ツールキットを使用して実行する必要があります。
- C. Windows ではサポートされていません。
- D. エンタープライズ グレードのデータベースが必要です。
- E. ディスク容量が 2 GB を下回ると、アラートが生成されません。

Answer: D,E (メッセージを残す)

説明

AppDynamics パフォーマンス プロファイルは、AppDynamics プラットフォームのさまざまなレベルの負荷とスケーラビリティをサポートするように設計されたシステム要件と構成設定の事前定義されたセットです。パフォーマンス プロファイルは、プラットフォームが処理する必要があるエージェント、メトリック、イベントの数に応じて、小規模から超大規模までの範囲になります。大および特大パフォーマンス プロファイルは、次の点で他のプロファイルタイプと異なります。

エンタープライズ グレードのデータベースが必要です。大規模および超大規模のパフォーマンス プロファイルには、エンタープライズ グレードの外部 MySQL データベースが必要です。つまり、高可用性、スケーラビリティ、パフォーマンス、およびセキュリティ機能を備えています。データベースには、予想される負荷と増加に対処するのに十分なディスク領域、メモリ、CPU リソースも必要です。AppDynamics プラットフォームは、データベースを使用して構成データ、メトリック データ、イベント データ、分析データを保存します¹²。ディスク容量が 2 GB を下回るとアラートが生成される: 大および特大パフォーマンス プロファイルには、コントローラ ホスト上のディスク容量が 2 GB を下回ると管理者に通知するアラート メカニズムが組み込まれています。これは、コントローラーには一時ファイル、ログ、バックアップ、スナップショットを保存するのに十分なディスク領域が必要であるためです。ディスク容量が不十分な場合、コントローラーのパフォーマンスの低下、データの損失、または破損が発生する可能性があります。管理者はディスク領域の使用状況を監視し、必要に応じて領域を解放したり、ディスク容量を追加したりする必要があります³⁴。他のステートメントは次の理由から誤りです。

A: ベアメタル サーバーにインストールする必要はありません。大および超大のパフォーマンス プロファイルは、Linux や Windows などのサポートされているオペレーティング システムや、物理、仮想、クラウドなどのサポートされているプラットフォームにインストールできます。ただし、ホスト マシンには、パフォーマンス プロファイル要件を満たすのに十分な CPU、メモリ、およびネットワーク リソースが必要です¹²。

B: 高可用性ツールキットを使用して実行する必要はありません。高可用性ツールキットは、AppDynamics プラットフォームの高可用性展開を構成および管理するために使用できるオプションのツールです。この展開では、複数のコントローラーがクラスター化されて冗長性とフェイルオーバーが提供されます。高可用性ツールキットは、大規模プロファイルや超大規模プロファイルだけでなく、あらゆるパフォーマンス プロファイルで使用できます。ただし、高可用性ツールキットにはライセンスと追加のハードウェアおよびソフトウェア リソースが必要です。

C: Windows でサポートされています。ホスト マシンがパフォーマンス プロファイル要件を満たしている限り、大規模および特大パフォーマンス プロファイルは Windows Server 2012、2012 R2、2016、または 2019 にインストールできます。ただし、高可用性ツールキット、Enterprise Console、Events Service¹² など、一部の機能や構成は Windows では利用できない、またはサポートされていない場合があります。

参考資料: プラットフォーム要件、コントローラー システム要件、コントローラー ディスク容量要件、コントローラー ディスク容量アラート、[高可用性]、[高可用性ツールキット]

最新問題: 12

AppDynamics コントローラーが正しくスケーリングされていない場合に発生する 2 つの症状はどれですか? (2つお選びください。)

- A. スナップショットは 2 週間を過ぎると利用できなくなります。
- B. ヘルス ルール違反がより頻繁に発生します。
- C. 層の平均応答時間が通常よりも長くなります。
- D. コントローラーのメトリック レポートは現在時刻より 7 ~ 10 分遅れています。
- E. コントローラ UI の動作が遅い。

Answer: D,E (メッセージを残す)

説明

Cisco AppDynamics Professional Implementer (CAPI) のドキュメントによると、AppDynamics コントローラが正しくスケーリングされていない場合に発生する 2 つの症状は次のとおりです。

コントローラーのメトリック レポートは、現在時刻より 7 ~ 10 分遅れています。(D)

AppDynamics コントローラーは、アプリケーション、層、ノード、およびその他のエンティティを監視するエージェントからメトリクスを収集、処理、および保存するため、これは有効な症状です。コントローラーが正しくスケーリングされていない場合、受信メトリック データを処理するための十分なリソース (CPU、メモリ、ディスク領域、ネットワーク帯域幅など) がない可能性があります。これにより、メトリクス データのバックログが発生し、

コントローラーが現在時刻より遅れる可能性があります。コントローラーのメトリックレポートの遅延は、パフォーマンス分析とトラブルシューティングの精度と適時性に影響を与える可能性があります¹²。

コントローラー UI のパフォーマンスが遅い。(E) AppDynamics コントローラー UI は、ユーザーが AppDynamics プラットフォームのパフォーマンス データと構成設定にアクセス、視覚化、操作できるようにする Web ベースのアプリケーションであるため、これは正当な症状です。コントローラーが正しくスケーリングされていない場合、UI リクエストを処理するのに十分なリソース (CPU、メモリ、ディスク容量、ネットワーク帯域幅など) がありません。これにより、UI が遅くなったり応答しなくなったりして、ユーザーエクスペリエンスや生産性に影響を与える可能性があります¹²。

間違ったオプションは次のとおりです。

スナップショットは 2 週間を過ぎると利用できなくなります。(A) AppDynamics コントローラーはデフォルトで 2 週間を超えてスナップショットを保存しないため、これは有効な症状ではありません。スナップショットは、AppDynamics プラットフォームによって監視されるビジネス トランザクションの実行コンテキストとコール グラフの詳細な記録です。スナップショットはパフォーマンスの問題やエラーを診断するのに役立ちますが、大量のディスク領域を消費します。ユーザーが保持ポリシーを変更しない限り、AppDynamics コントローラーは 2 週間を超えたスナップショットを自動的に削除しません。ディスク容量が使い果たされない限り、スナップショットの可用性はコントローラーのスケーリングの影響を受けません³⁴。

健全性ルール違反がより頻繁に発生します。(B) AppDynamics コントローラーによって正常性ルール違反がより頻繁に発生するわけではないため、これは有効な症状ではありません。正常性ルール違反は、監視対象エンティティのパフォーマンスまたは可用性メトリックがユーザーが定義したしきい値を超えるとトリガーされます。健全性ルール違反は、コントローラー自体ではなく、監視対象のアプリケーション、層、ノード、またはその他のエンティティにパフォーマンスの問題またはエラーが存在することを示します。コントローラーがメトリクス データの収集または処理に失敗しない限り、ヘルス ルール違反の頻度はコントローラーのスケーリングの影響を受けません⁵。

層の平均応答時間は通常よりも長くなります。AppDynamics コントローラーは層の平均応答時間に影響を与えないため、これは有効な症状ではありません。層の平均応答時間は、AppDynamics プラットフォームによって監視されているビジネス トランザクションからの受信リクエストを層が処理するのにかかる平均時間です。層の平均応答時間は、コントローラー自体ではなく、アプリケーション コード、インフラストラクチャ、依存関係、および層のワークロードのパフォーマンスと動作の影響を受けます。コントローラーがメトリクス データの収集または処理に失敗しない限り、層の平均応答時間はコントローラーのスケーリングの影響を受けません。

参考文献:

1: コントローラーのシステム要件 - AppDynamics

2: コントローラーのサイジングガイドライン - AppDynamics

3: トランザクションのスナップショット - AppDynamics

4: データ保持の構成 - AppDynamics

5: ヘルスルール - AppDynamics

最新問題: 13

ある企業は、オンプレミスの AppDynamics コントローラーとオンプレミスの Events Service クラスターをセットアップしました。この Events Service クラスターのセットアップについて説明します。

- A. イベント サービス API ポートをデフォルトの 9080/2081 から再構成することはできません。
- B. コントローラーは、イベント サービス クラスターとの通信を開始できる必要があります。
- C. イベント サービス クラスターはコントローラーとの通信を開始できる必要があります。
- D. Events Service クラスターの前にロード バランサーや仮想 IP アドレスは必要ありません。

Answer: ([解答を表示する](#))

説明

イベント サービスは、アプリケーション分析、データベースの可視性、およびエンド ユーザー監視の展開によって生成された非構造化データ用のオンプレミス データ ストレージ機能です。イベント サービスは、データ量と可用性の要件に応じて、単一ノードまたは 3 つ以上のノードのクラスターとして展開できます。

コントローラーと他のイベント サービス クライアントは、イベント サービスに接続して、分析データを保存および取得します。したがって、コントローラーがイベント サービス API ポート (デフォルト 9080/2081) を使用してイベント サービス クラスターとの通信を開始できることが重要です。Events Service クラスターはクライアントからの要求にのみ応答するため、コントローラーとの通信を開始する必要はありません。イベント サービス API ポートは、必要に応じて、各ノードの `conf/events-service-api-store.properties` ファイルを変更することで、デフォルト値から再構成できます。ただし、クライアントも新しいポート値で更新する必要があります。また、Events Service クラスターの前にロード バランサーまたは仮想 IP アドレスを使用して、クライアントに単一のエンドポイントを提供し、ノード間のロード バランシングとフェールオーバーを有効にすることもお勧めします。参照: AppDynamics ドキュメントの「イベント サービスのデプロイメント」、Linux でのイベント サービスのインストール」、および Windows でのイベント サービスのインストール」。

最新問題: 14

AppDynamics コントローラーの JVM オプションを定義して、コントローラーのアップグレード後も JVM オプションが保持されるようにするために使用できる 2 つの方法はどれですか? (2つお選びください。)

- A. AppDynamics が提供する modifyJvmOptions ユーティリティを使用します。
- B. Enterprise Console の [コントローラ設定] ページで JVM オプションを定義します。
- C. java -javaagent:"options jar" を介して JVM オプションをコントローラーに渡します。
- D. AppDynamics が提供する controller.sh スクリプトを使用します。
- E. ドメインで JVM オプションを手動で定義します。xmiファイル。

Answer: ([解答を表示する](#))

説明

Cisco AppDynamics Professional Implementer (CAPI) のドキュメントによると、AppDynamics コントローラの JVM オプションを定義して、コントローラのアップグレード後も JVM オプションが保持されるようにするために使用できる方法は次の 2 つです。

AppDynamics が提供する modifyJvmOptions ユーティリティを使用します。(A) これは有効な方法です。modifyJvmOptions ユーティリティは、ファイルを手動で編集せずに、コントローラの JVM オプションを追加、削除、または一覧表示できるスクリプトであるためです。このユーティリティは、JVM オプションの構文と形式も検証し、元の構成のバックアップを作成します。ユーティリティは次の場所にあります。

<controller_home>/bin ディレクトリにあり、Linux または Windows プラットフォームで実行できます。ユーティリティは、指定された JVM オプションを含む

<controller_home>/appserver/glassfish/domains/domain1/config/domain.xml ファイル。これらはコントローラーのアップグレード中に保存されます¹²。

Enterprise Console の「コントローラ設定」ページで JVM オプションを定義します。(B)

Enterprise Console の [コントローラ設定] ページは、JVM オプションを含むコントローラのさまざまな設定を構成できるグラフィカル ユーザー インターフェイスであるため、これは有効な方法です。Enterprise Console は、コントローラー、イベント サービス、EUM サーバーなどの AppDynamics プラットフォーム コンポーネントを一元管理する方法を提供する Web ベースのアプリケーションです。Enterprise Console は、コントローラのアップグレード プロセスも処理し、[コントローラの設定] ページで定義された JVM オプションを保存します³⁴。

間違ったオプションは次のとおりです。

java -javaagent:"options jar" を介して JVM オプションをコントローラーに渡します。AppDynamics エージェントの jar ファイルへのパスの指定には、コントローラーの JVM オプションではなく、java -javaagent オプションが使用されるため、これは有効な方法ではありません。エージェント jar ファイルは、コントローラー自体ではなく、AppDynamics プラットフォームによって監視される Java アプリケーションを計測するために使用されます。エージェントの jar ファイルには、コントローラのホスト、ポート、

アカウント名、アクセス キー、アプリケーション名などのエージェント構成プロパティも含まれています。このオプションを介して JVM オプションをコントローラーに渡しても、コントローラーのパフォーマンスや動作には影響しません5。

AppDynamics が提供する controller.sh スクリプトを使用します。(D) これは有効な方法ではありません。controller.sh スクリプトは、コントローラーの JVM オプションを定義するためではなく、コントローラーを開始、停止、または再起動するために使用されるからです。controller.sh スクリプトは <controller_home>/bin ディレクトリにあり、Linux プラットフォームで実行できます。controller.sh スクリプトは、JVM オプションの引数やパラメータを受け入れず、JVM オプションを使用して構成ファイルを更新しません。このスクリプトを使用してコントローラーの JVM オプションを定義しても、コントローラーのパフォーマンスや動作には影響しません6。

ドメイン内で JVM オプションを手動で定義します。xmiファイル。(E) ドメインがあるため、これは有効な方法ではありません。xmi ファイルは、コントローラーの JVM オプションの構成ファイルではなく、WebSphere Application Server の構成ファイルです。WebSphere Application Server は、コントローラー自体ではなく、AppDynamics プラットフォームによって監視される Java アプリケーションをホストするために使用できる Java EE アプリケーション サーバーです。ドメイン。xmi ファイルには、サーバー名、ポート、セキュリティ、データ ソース、クラス ローダーなどの WebSphere Application Server の設定が含まれています。このファイルで JVM オプションを手動で定義しても、コントローラーのパフォーマンスや動作には影響せず、エラーや WebSphere Application Server 構成との競合が発生する可能性があります7。

参考文献:

- 1: コントローラーの JVM オプションを変更する - AppDynamics
- 2: コントローラーのリリース アップグレード チェックリスト - AppDynamics
- 3: Enterprise Console を使用してコントローラーを構成する - AppDynamics
- 4: Enterprise Console を使用してコントローラーをアップグレードする - AppDynamics
- 5: Java エージェントのインストール - AppDynamics
- 6: コントローラーの開始と停止 - AppDynamics
- 7: WebSphere Application Server の構成 - IBM

最新問題: 15

Mobile SDK のデフォルト設定では _____ and _____ が有効になります。(正しい選択肢を 2 つ選択して文を完成させてください。)

- A.クラッシュ レポート
- B. ユーザーデータ
- C. ネットワークリクエスト
- D. カスタム タイマー
- E. ブレッドクラム

Answer: ([解答を表示する](#))

説明

Mobile SDK のデフォルト設定では、クラッシュ レポートとネットワーク リクエストが有効になります¹²。クラッシュ レポートは、アプリの異常終了の原因となる未処理の例外やシグナルをキャプチャして報告します¹。ネットワーク リクエストは、app2 によって行われた HTTP および HTTPS リクエストのパフォーマンスとエラーを監視します。これらの機能はデフォルトで有効になっており、機能させるために追加のコードや構成は必要ありません¹²。参考資料: クラッシュ レポート、ネットワーク リクエスト

最新問題: 16

現在運用中の EUM サーバーをアップグレードするために管理者が実行する必要がある 2 つのアクションは何ですか? (2つお選びください。)

- A. EUM エージェントを停止します。
- B. EUM エージェントをアップグレードします。
- C. EUM サーバーのアクセス キーを更新します。
- D. アップグレード前に EUM サーバーを停止します。
- E. EUM ホスト マシンで新しいインストーラーを実行します。

Answer: D,E (メッセージを残す)

説明

現在運用中の EUM サーバーをアップグレードするには、管理者は次の手順に従う必要があります。

アップグレードの前に EUM サーバーを停止します。これにより、EUM サーバーはアップグレード プロセス中に EUM エージェントからの受信データを処理しなくなります。管理者は、eum.sh または eum.bat スクリプトを使用して、EUM サーバーを正常に停止できます¹。

EUM ホスト マシンで新しいインストーラーを実行します。インストーラーは既存の EUM Server インストールを検出し、管理者にそれを最新バージョンにアップグレードするように求めます。インストーラーは、必要に応じて、EUM データを古いバージョンから新しいバージョンに移行します。管理者は、インストーラー ウィザードの指示に従ってアップグレードを完了する必要があります²。

他のオプションは、EUM サーバーのアップグレードには必要ないか、または正しくありません。EUM エージェントは新しいバージョンの EUM サーバーと互換性があるため、管理者は EUM エージェントを停止またはアップグレードする必要はありません。EUM サーバーのアクセス キーはアップグレード後も同じままであるため、管理者は更新する必要はありません。MySQL は EUM Server インストール パッケージにバンドルされているため、管理者はインストールする必要はありません²。参考資料: AppDynamics ドキュメントの「運用 EUM サーバーのアップグレード」および「EUM サーバーの起動と停止」。

有効な **500-430** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい 500-430 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **500-430** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com 500-430 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com 500-430 問題集をゲットする人はこちら: <https://www.goshiken.com/Cisco/500-430-mondaishu.html> (**5230%OFF**問題集溶と正解付きで **30%**w 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 17

データベース エージェントを更新するときに正しい 2 つのステートメントはどれですか？ (2つお選びください。)

- A. アップグレード中にデータベース エージェントを停止して再起動する必要があります。
- B. アップグレード中にエージェントが新しい場所に移動された場合、エージェントの新しい場所を参照するように AppDynamics コントローラーを再構成する必要があります。
- C. 以前のエージェントから作成されたすべてのデータ コレクターを新しいエージェントに移行する必要があります。
- D. Controller-info.xml は、以前のエージェントから新しいエージェントに移行する必要がある唯一のファイルです。
- E. データベース エージェントをアップグレードした後、AppDynamics コントローラーを再起動する必要があります。

Answer: ([解答を表示する](#))

説明

Cisco AppDynamics Professional Implementer (CAPI) のドキュメントによると、データベース エージェントを更新する場合は、次の手順に従う必要があります¹²。

「データベース エージェントの起動と停止」の特定のインストールの説明に従って、エージェントを停止します。

既存のエージェント ディレクトリ <db_agent_home> のコピーを作成します。バックアップすると、必要に応じて以前のエージェントのインストールに戻すことができます。また、controller-info.xml 構成ファイルを新しいインストール環境にコピーして、エージェント構成が確実に維持されるようにすることもできます。

「データベース エージェントの管理」の特定のインストールの説明に従って、データベース エージェントをインストールします。

<backup_db_agent_home>\conf\controller-info.xml ファイルを新しいインストール ディレクトリにコピーします。

<db_agent_home>\conf. エージェント構成が維持されていることを確認するには、

<backup_db_agent_home>\conf\controller-info.xml ファイルを新しいインストール ディレクトリにコピーします。

<db_agent_home>\conf.

新しいエージェントを開始します。「データベース エージェントの起動と停止」を参照してください。

データベース エージェントのインストールを確認します。「データベース エージェントのインストールの確認」を参照してください。

したがって、正しい記述は次のとおりです。

アップグレード中にデータベース エージェントを停止して再起動する必要があります。

(A) 以前のエージェントから新しいエージェントに移行する必要があるファイルは、Controller-info.xml だけです。

(D)

間違った記述は次のとおりです。

アップグレード中にエージェントが新しい場所に移動された場合は、エージェントの新しい場所を参照するように AppDynamics コントローラーを再構成する必要があります。(B)

これは当てはまりません。controller-info.xml ファイルには、コントローラーのホスト、ポート、アカウント名、アクセス キー、および SSL 設定に関する情報が含まれています。このファイルが新しいエージェントの場所にコピーされている限り、コントローラーを再構成する必要はありません。

以前のエージェントから作成されたすべてのデータ コレクターを新しいエージェントに移行する必要があります。データ コレクターはエージェントではなくコントローラー UI で構成されているため、これは当てはまりません。エージェントはデータベースからメトリクスを収集し、コントローラに送信します。データ コレクターを新しいエージェントに移行する必要はありません。

データベース エージェントをアップグレードした後、AppDynamics コントローラーを再起動する必要があります。(E) コントローラーはエージェントのバージョンに依存しないため、これは当てはまりません。エージェントとコントローラの互換性要件を満たしている限り、エージェントとコントローラには互換性があります。

参考文献:

1: データベース エージェントをアップグレードする - AppDynamics

2: データベース エージェントのリリース アップグレード チェックリスト - AppDynamics

Valid 500-430 Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing 500-430 Exam!
GoShiken.com now offer the **newest 500-430 exam dumps**, the GoShiken.com
500-430 exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get
the **newest** GoShiken.com 500-430 dumps with Test Engine here:
<https://www.goshiken.com/Cisco/500-430-mondaishu.html> (52 Q&As Dumps, **30%OFF**
Special Discount: Freepdfdumps)